

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190800126		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	越谷西ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県越谷市南荻島565-1		
自己評価作成日	平成 27 年 4 月 6 日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivgoVoCd=1190800126-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 27年 4 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個性を尊重し、居心地の良い環境づくりと、質の高いケアを追求する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から入った田園地帯の一角に位置している当ホームは、併設のデイサービスとも交流も頻繁に行われている。地域との交流も良好で地域のボランティアが傾聴ボランティアや踊りや歌を披露してくれる。近隣とのグループホームとの交流もあり、グループホーム同士で集まり、意見交換や認知症の研修を行ったり空き室状況の意見交換や、災害マニュアルを考えたりしている。食事にも力を入れており、見た目だけでなく、触感も楽しめるように工夫が行われており、利用者にも大好評であった。職員と利用者の笑顔あふれる施設である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を把握し、地域交流の実践に努めている。	法人全体の理念をもとにケアを行っている。理念は朝礼時に唱和して共有し、実践に繋がられるようにしている。ユニット会議、グループホーム会議で事業所独自の目標を検討中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校や保育園と交流を図り、店舗などに利用者が気軽に行けるように努めている。	近隣小学校とは4年生の授業のカリキュラムとして年4回交流をしている。納涼祭は、地域の方にも案内を出し、一緒に楽しい時間を過ごした。地域包括、自治体、父母会等の参加する地域会議に参加している。	地域との交流が深まり、地域の方と支え支えられる関係が構築されることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症の病理解、勉強会を行っている。また散歩などで地域の人々と会話できる機会を持てるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、利用者状況や行事の報告、今後の取り組みについて話を行っている。	2ヶ月に1回、定期的開催している。事業所から状況お知らせや報告の後、参加者と意見交換をしている。家族が気軽に話をする雰囲気を作り、日頃の悩み等を話せるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種報告を行っている。	管理者が市の窓口へ直接訪問して事業所の状況を伝え、いろいろな相談をすることが多い。電話よりも、直接顔をみながら話をし、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム会議において、勉強会、研修会を行って、全職員が正しい理解、認識を深めている。特に施錠は行っていない。	身体拘束に関する研修は、事業所内研修の必須項目に含まれており、拘束にあたる行為について全員に周知されている。外部研修にも積極的に参加。言葉での拘束もあることを全体に意識づけをし、別の表現ができるよう考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に勉強会、研修会を行い、正しい認識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についてのパンフレットの掲示を行い、利用者及び来訪者が手に取りやすいようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会において、利用者家族の意見要望を反映している。苦情相談受付票にて、家族の意見を全職員が共有し、ケアなどに活かしている。	新しい利用者とは、信頼関係ができるまで少しずつ距離を近づけ、気持ちを話してもらえよう努めている。家族には、毎月手紙で個々の状態をお知らせし、要望や意見があれば、サービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議、グループホーム会議において職員が、自由に意見交換できる環境を設けている。	基本的に職員会議を意見、要望を聞く機会としている。決められたことをするだけのサービスとならないよう、職員一人ひとりが考えて意見を出し合い、それをサービスに反映させるよう工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有期雇用の方には、契約更改制度による給与の見直しと正社員には年一度の考課にて給与の見直しを行っている。また処遇改善交付金制度を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対しての一カ月のトレーニング期間を設けて実施している。またスキルアップのため、社内研修、外部研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修、支社の各委員会において交流や情報交換の場を設けている。また介護相談員派遣事業三者会議や市内グループホーム特定部会にて同業他社との意見交換、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受け入れ前の実態調査にて、ご本人のニーズまた不安な事柄などを詳しく伺うようにしている。入居後もコミュニケーションの中から、ご本人の気持ちを伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時ご家族からの要望や困っていることを具体的に聞き取り、基本情報に乗せている。来訪時には積極的にお話をするようにし、ご家族の要望、関係構築を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同施設他サービスをご利用の方は、まず短い一定期間グループホームに遊びに来てもらい少しずつ慣れて頂くよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等を利用者、職員で共同して行っている。また、重度利用者のお世話を軽度利用者が自主的に行う場面もある(介護除く)。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等のお知らせと参加を促し、家族交流の場を提供している。困難事例の場合、入浴や食事の実際状況を一緒に見てもらい、声掛けなど協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者への来客は積極的に受け入れると共に談話などを楽しみやすい環境づくりに努めている。買い物等、馴染みの場所へ行くことが出来る様支援している。	昔からの友人や家族の来訪を歓迎し、ゆっくり過ごしていただけるよう声掛けしている。クリスマス会は、利用者と家族と一緒に食事をし、楽しい時間を過ごせるよう企画し、家族との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット会議にて、利用者間の人間関係について協議し友好関係を促進する支援について検討している。場合によっては家族を含めたカンファレンスを行い、より良い関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に移られる際は、情報提供や相談を行い、スムーズに移動できるよう支援している。また、退去後についても職員が面会しフォローすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で利用者のニーズや要望を把握し支援に活かしている。意思疎通の困難な場合は、表情や以前の生活歴からニーズを探り出す。	夜間や入浴中等、1対1で利用者と話ができる時間にそっと話しかけ、想いを話してもらえよう心掛けている。言葉にならない表現からも利用者の気持ちをくみ取り、サービスに反映したいと考えている。	利用者の歴史を振り返り、その方の価値観や想いを把握したいと考えている。利用者理解を深めることで、サービスが更に向上することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時、ご本人や家族から頂いた情報をもとにカンファレンス等にてサービスの方向性を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過記録、温度表をもとにユニット会議にて現状と問題点を検討し、全職員が共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスやモニタリングを活かした介護計画やケアプランを行っている。	毎月、利用者の状態について情報を共有し、利用者、家族、介護職員、医療関係者等の意見を組み合わせるケアプランを作成している。入退院、状態変化等があった場合は、随時話し合い、変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のケースカンファレンスにて利用者の現状の把握とその共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとり一人のニーズを把握し、定期的なレクリエーション以外にご本人の状態に合わせて個別レクの提供を行い、ニーズを反映したサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域施設の活用、ボランティアの受け入れ等を行い、地域交流に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係を築きつつ、ご家族の希望を取り入れた三者カンファレンスの実施やムンテラを行っている。訪問歯科医による職員に対する研修も行き、緊密な関係性を図っている。	専門医は、家族対応にてかかりつけ医で受診している。内科、皮膚科、歯科の往診を受けている。連携病院から24時間指示、対応をしてもらえる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH内に正看護師を配置し日々の健康チェックや職員からの相談を受けている。医療機関との連携、ご家族との医療的相談にも応じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が定期的に見舞いに伺い、ご本人の状況把握を行っている。ソーシャルワーカー等医療関係者との連携を行い、退院時指導、退院日程の調整を行っている。看護サマリー、診療情報提供書の依頼を行い、日常の対応について検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際、指針に沿って対応することとなり、家族、医療機関、職員の三者にて話し合いを行い、記録に残す。また職員による研修を実施して全職員が看取りへの理解を深めている。	看取りに関する指針があり、契約時に説明している。必要な時期に再度話をし、気持ちを確認し、具体的な看取り内容は、医師から、職員、家族に書類をもとに説明がある。個々の希望に応じて職員は対応方法を検討し、ケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の書類等を用意しており、社内のマニュアルに沿って対応を行うように指導している。また24時間受け入れ体制の医療機関より、相談指導が受けられるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定マニュアル訓練を実施している。	火災、地震に限らず、竜巻等の自然災害にも対応できるよう準備をしている。災害時マニュアルを作成し、備蓄品の確認も行っている。避難訓練時には、消火器の使用体験やDVD観賞等を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し敬意を持った対応、言葉遣いに注意している。プライバシーに触れるようなことについては、本人の尊厳に配慮した対応をしている。	一人ひとりを尊重する想いが伝わる様な言葉遣いを心掛けている。排泄支援では、必要な部分を介助することを徹底し、必要以上にそばでいることはせず、トイレの外で待つ配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で利用者のニーズを見出し把握している。また食事のメニュー選び、セレクトティーと自己選択、自己決定のできる場面を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務優先にならず、利用者のペースを尊重し一人ひとりに合わせた生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は洗面台にて整容をしていただき、困難な方には職員が支援している。また化粧水や乳液を設置し自由に使用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳、片づけ、洗物に至るまでそれぞれ得意な分野にて参加頂いている。作業終了時には職員が感謝の気持ちを述べて満足感や達成感を得て頂いている。	昼食は階下の厨房にて調理している。それ以外は、希望に合わせて職員と一緒に作っている。「おはぎ食べたい」「ラーメン食べたい」という利用者の声を受けておやつや食事のメニューを考えることも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	社内にて栄養士が作成した献立をもとにバランスの良い食事提供をしている。水分摂取は好みに合ったものを用意して不足分を補っている。また一人一人に合った食事形態を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導の下口腔ケアを行っている。また義歯の洗浄、消毒を行い利用者に口腔ケアを促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、オムツを使用せず自然にトイレで排泄が行えるよう支援している。また定時誘導をして排泄の失敗を減らす支援をしている。	できるだけトイレで排泄できるよう、サポートにより座位がとれる方にはトイレでの排泄支援をしている。排泄チェック表を利用して個々のタイミングを図り、その人にあった対応を話し合って考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保の工夫と適度の運動を行い、自然排便を促している。また看護師により排便の促進を行っている。便秘時には医療機関と相談しながら服薬を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康上の支障のない限り毎日入浴されている。自分のペースで楽しんで頂ける様に入浴の順番や時間を組んでいる。	入浴は基本毎日実施している。一人ひとりのその日の体調、気分、タイミング等により洗い方や入浴剤の使用、そして入浴の有無等を決めている。職員と1対1で話せる時間を楽しみにする利用者が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人一人のペースに合わせて自由に休んで頂いている。不眠の人には眠くなるまでお好きなように過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が分かりやすいようにケースファイルに薬の説明書をつづっておりすぐに確認できるようにしている。また服薬の変更時には申し送りノートに記載し情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等の役割分担により楽しみの実現を支援している。また健康上の支障のない範囲で嗜好品を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて買い物や散歩等、外出の機会を設けている。	全体の企画として行くお花見や日常的な散歩等に加え、誕生日には、「食べたい物を食べに行きたい」、「ショッピングに行きたい」、「お墓参りに行きたい」という一人ひとりの希望を聞き、出来る限り出かけられるよう対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の買い物は自分で商品を選んで頂きお小遣い金により精算している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の状況により電話を使用して頂いている。また携帯電話を使用し自由に連絡できるようにしている。年賀状や暑中見舞いも送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアは生活感と季節感を感じて頂けるよう装飾に心がけている。職員は利用者様が不快に感じないようできるだけ不快感を立てないよう心掛けている。	共用空間の配色は、比較的落ち着いた色を基調としている。衛生管理を徹底してそうじをまめに行っている。感染症防止のために職員は各々消毒を持ち歩き、1ケア1消毒を実施している。行事の写真を掲示し、楽しみを話題にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の物の置き場所や席が決まっていて安心して過ごせる環境を作っている。各自が自分の居場所を持っていて気の合う利用者同士で生活している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひとり一人大切なものや好みの物を持参して頂き生活しやすい居室の環境づくりをしている。	グループホームは3階である為、1階玄関に下駄箱がある。障子から差し込む明かりはとてもやさしい。使い慣れたものを持ち込みし、本人が馴染みやすいようにしている。冷蔵庫の持ち込みも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ごとにのれんを使用し利用者様が分かりやすいようにしている。浴室にものれんを使用し目印にしている。		